

I-5 新型コロナウイルス感染症の流行と日本人の旅行

当財団では、2020年度より新型コロナウイルス感染症の流行が旅行市場に及ぼした影響把握を目的に、定期的を実施している「JTBF 旅行実態調査」、「JTBF 旅行意識調査」(6ページ参照)の調査内容を拡充し、分析を進めている。本稿では、2020年1月から2023年6月までの約3年半の調査結果について紹介する。

なお、本章では、「JTBF 旅行実態調査」のうち2022年4~5月に実施した調査は「2022年4月調査」、2023年5~6月に実施した「JTBF 旅行意識調査」は「2023年5月調査」と表記する。

■ 旅行実態
 2023年3月の国内旅行「予定どおり実施率」
 8割超でコロナ禍前の状況へ

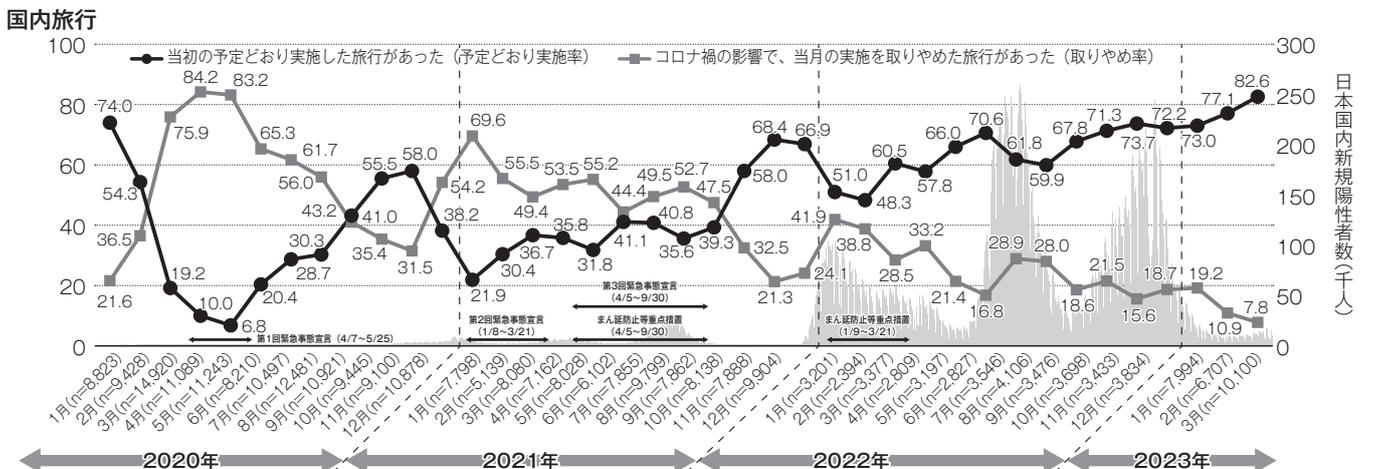
(1) 旅行実施への影響

国内旅行への影響を見ると、「当初の予定どおり実施した旅行があった」と回答した割合(予定どおり実施率)は、コロナ禍初期(2020年5月)には6.8%にとどまっておき、その後も緊急事態宣言等の発出や感染拡大の状況に応じて増減を繰り返し

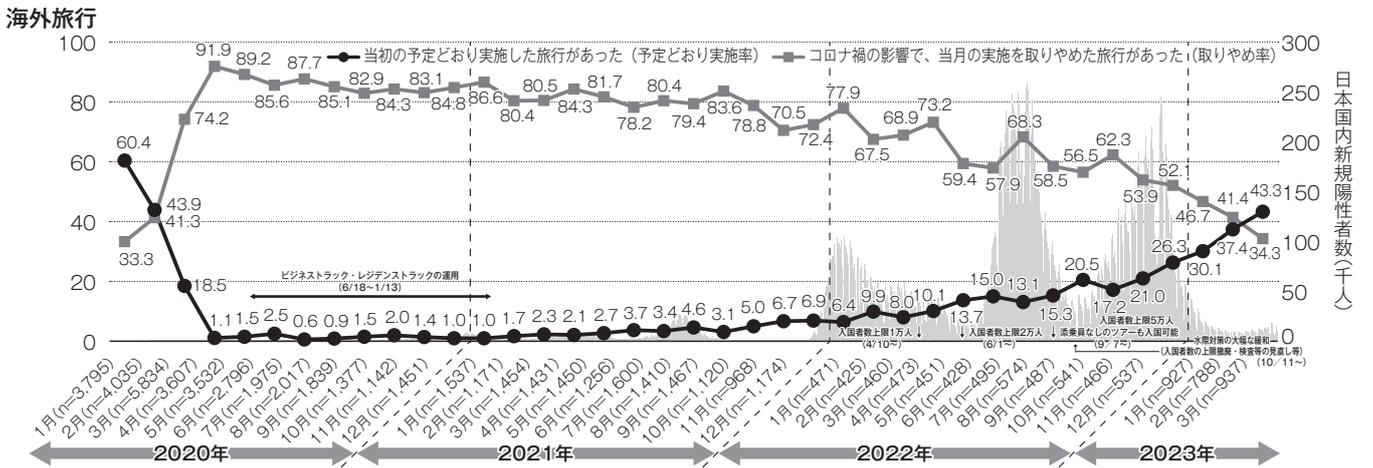
てきた。2021年10月以降は、感染者数が増加している時期があるにもかかわらず、継続して予定どおり実施率が「コロナ禍の影響で、当月の実施を取りやめた旅行があった」と回答した割合(取りやめ率)より高い割合で推移している。特に2023年3月には、予定どおり実施率が8割を超え、調査開始以来、最も高い割合になった。また、コロナ禍を理由とする取りやめ率も調査開始以来初の1桁台(7.8%)となり、国内旅行実施の状況はコロナ禍前の状況に戻りつつあることがわかる。

海外旅行への影響を見ると、予定どおり実施率は、入国制限や水際対策の強化等の背景から、2020年4月から2022年3月までは10%未満の割合で推移してきた。2022年4月以降は、入国者数の上限引き上げや撤廃、入国時検査等の見直し等の水際対策の緩和が漸進的に行われたことから、徐々に予定どおり実施率が上昇し、2023年3月には2020年2月以来の4割超えで取りやめ率を上回った。取りやめ率は、2020年5月から2022年1月までは7~8割台で推移していたが、2022年以降は徐々に減少し、2023年3月には34.3%とコロナ禍初期(2020年1月)と同水準まで減少した(図I-5-1)。

図 I-5-1 コロナ禍による観光旅行への影響(旅行を計画していた人のみ)(複数回答) (単位: %)



*緊急事態宣言・まん延防止等重点措置期間: 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室 新型コロナウイルス感染症対策サイト「基本的対処方針に基づく対応」より、日本国内新規陽性者数: 厚生労働省資料より(公財)日本交通公社作成



*ビジネスラック・レジデンスラックの運用期間: 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室 新型コロナウイルス感染症対策サイト「水際対策強化に係る新たな措置(7)」より、日本国内新規陽性者数: 厚生労働省資料より(公財)日本交通公社作成 資料: (公財)日本交通公社「JTBF 旅行実態調査」

(2)実施した旅行への影響

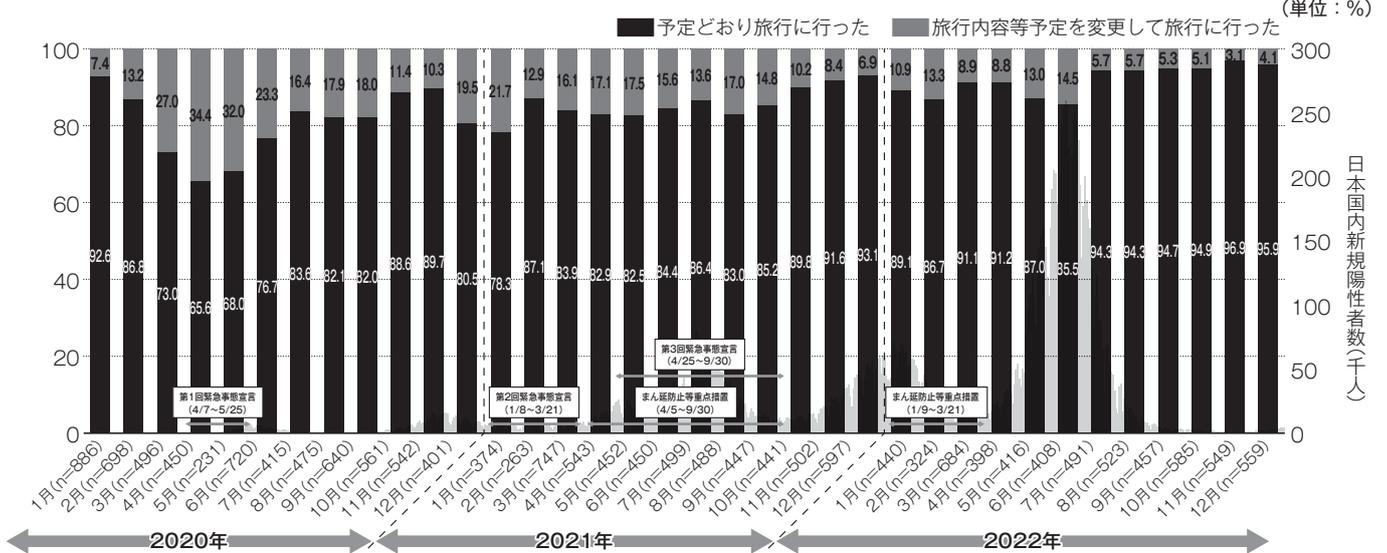
●国内宿泊観光旅行の内容変更の有無

コロナ禍の影響を受けず予定どおり国内旅行を実施した割合は、新型コロナウイルスの感染状況によって増減しながらも年を追うごとに増加している。特に2022年7月以降は約95%を占め、コロナ禍の影響による旅行内容の変更は少なくなっている(図I-5-2)。

●コロナ禍での国内宿泊観光旅行の実施にあたっての気持ち

2023年3月の旅行実施にあたっての気持ちでは、「コロナに対する不安は感じない(40.1%)」がトップ、次いで「心配しても仕方がない(35.5%)」となった。「旅行して良いのか迷った」は、最も割合が高かった2021年1月は23.0%だったが、直近の2023年3月には約20ポイント減の3.7%となった。コロナ禍を経る中で、新型コロナウイルス感染症に対する不安が徐々に緩和したことや周囲の状況の変化等から、旅行実施への迷いがなくなってきていることがわかる(表I-5-1)。

図 I-5-2 実施した国内宿泊観光旅行のコロナ禍による変更有無(コロナ禍の影響で旅行を取りやめた人のみ)



※緊急事態宣言・まん延防止等重点措置期間：内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室 新型コロナウイルス感染症対策サイト「基本的対処方針に基づく対応」より、日本国内新規陽性者数：厚生労働省資料より(公財)日本交通公社作成
(注)本設問は2023年1月調査まで実施したため、データは2022年12月に実施した旅行までとなる。資料：(公財)日本交通公社「JTBF 旅行実態調査」

表 I-5-1 コロナ禍での国内宿泊観光旅行実施にあたっての気持ち(複数回答)

	コロナに対する不安は感じない	心配しても仕方がない	行きたい旅行	どっぴりしても	値段が通常より安い	万全にすれば問題ない*	自分自身が感染対策を	あまり関わりはない	今の状況では自分に	旅行先の観光地を	我慢はかりしてられない	空いている	今の状況では	経済の活性化に貢献したい	経済の停滞は避けるべき	訪問先公共機関が感染対策を徹底しているため問題ない*	自身は感染しない、感染しても発症しない、軽症で済む	同行者の考えに応じた	行っているの	良いのか迷った*	旅行して	訪日外国人観光客が	増加しているから	その他
2022年	1月(n=440)	29.8	37.5	13.6	8.2	15.5	10.9	10.7	9.8	10.9	9.3	12.7	3.2	4.1	3.4	13.0	—	1.6						
	2月(n=324)	28.1	37.7	16.4	7.4	16.0	11.7	17.9	10.5	15.7	12.0	13.9	7.7	4.3	3.7	11.1	—	3.4						
	3月(n=684)	30.1	37.9	12.3	6.9	16.5	12.0	11.8	14.6	11.1	10.2	12.6	5.8	6.0	3.8	8.6	—	2.3						
	4月(n=435)	33.6	33.3	13.8	7.6	21.1	10.8	14.3	10.6	10.6	7.6	15.4	4.1	5.3	4.1	7.6	—	0.7						
	5月(n=503)	34.6	36.0	13.5	5.8	16.5	10.5	14.3	11.9	9.9	7.2	13.9	6.8	5.6	5.4	7.6	—	1.0						
	6月(n=500)	41.8	35.8	17.2	11.4	16.8	12.0	13.4	8.2	11.4	8.6	13.6	5.8	5.8	4.6	6.2	—	1.0						
	7月(n=491)	33.6	41.1	14.3	7.9	17.9	13.0	11.0	10.6	7.9	8.4	13.4	6.1	7.3	3.7	8.4	—	1.6						
	8月(n=523)	29.4	40.9	17.0	5.4	13.2	9.6	10.3	12.8	5.4	6.5	11.3	3.6	8.0	4.2	9.2	—	0.4						
	9月(n=457)	37.2	35.4	16.6	9.0	15.8	12.0	10.7	12.0	7.9	5.0	11.2	5.0	7.2	4.6	5.9	—	1.5						
	10月(n=585)	30.6	40.5	17.3	11.3	17.1	12.8	9.9	9.1	8.2	5.1	12.5	6.3	3.6	3.4	7.0	—	1.2						
	11月(n=549)	36.8	36.6	15.5	12.8	16.6	13.8	12.0	8.7	5.5	8.2	11.3	7.1	6.2	3.5	6.6	—	0.0						
	12月(n=559)	35.1	40.6	17.0	12.5	14.0	12.3	12.0	7.5	6.1	8.1	9.7	6.6	4.3	5.7	6.3	—	0.5						
2023年	1月(n=641)	38.2	36.0	20.1	13.9	15.6	13.7	13.4	11.7	9.2	10.6	7.3	6.7	6.2	4.1	4.8	0.9	0.9						
	2月(n=570)	38.8	35.4	19.3	15.1	12.6	15.1	12.5	9.5	9.8	11.1	6.5	6.7	7.0	3.9	4.2	1.9	0.5						
	3月(n=984)	40.1	35.5	20.2	13.5	12.4	11.9	11.3	10.6	7.6	7.1	6.7	6.3	5.6	5.4	3.7	1.8	0.5						

(注1) 2023年3月を基準に並び替え。
(注2) *は2021年度調査より、★は2023年度調査より追加。
(注3) 2020~2021年のデータは「旅行年報2022」JP54を参照。資料：(公財)日本交通公社「JTBF 旅行実態調査」

●コロナ禍で実施した国内宿泊観光旅行の感想

国内旅行の感想では、2023年3月は「自由に旅行ができることを幸せに感じた(37.4%)」が最多となった。また、「旅行が重要なものであることを再確認」といったポジティブな感想も継続して2割前後を占めている。「旅行先の感染対策が徹底されていた」は、2021年には継続して3割前後を維持していたが、2022年には徐々に減少し、2023年3月には1割程度にとどまっている。その一方で、「旅行先の感染対策が徹底されておらず不安」は5%未満で推移していることから、旅行者自身も旅行先での感染対策に敏感ではなくなってきたと考えられる(表I-5-2)。

●国内宿泊観光旅行中の感染対策

2023年3月の国内旅行での感染対策は、「マスクの着用(64.0%)」が最多となったが、9割台で推移していた2020年6月～2021年と比べると大幅減である。マスクの着用の内訳では、「混雑している屋内」が最多で、約半数が実施していた。「手洗い・うがいの励行・徹底」や「設置されているアルコール除菌を励行・徹底」は、2022年には6～7.5割で推移していたが、2023年1～3月には3～4割まで減少している。「特になにもしていない」は、1回目の緊急事態宣言解除後の2020年6月から2022年12月にかけて3%未満で推移していたが、2023年1～3月は10%前後で推移している(表I-5-3)。

表I-5-2 コロナ禍で実施した国内宿泊観光旅行の感想(複数回答)

(単位: %)

	自由に旅行ができることを 幸せに感じた	活気にあふれ、 賑わっていた	混雑がなく快適	コロナ禍前の旅行と 特段変わらなかった	旅行が重要なものである ことを再確認	当初の想定より混雑	感染が不安ではなかった	コロナ禍のストレスが 発散できた	旅行先で歓迎された	旅行先の感染対策が 徹底されていた	感染が不安	自分が感染源に ならないか心配	他の旅行者の感染対策 マナーが気になった	閑散としていて寂しい	感染を気にして疲れた	徹底されておらず不安	旅行先の感染対策が 徹底されておらず不安	快く思われなかった のではと不安	その他
	★	★			*		★			*			★			*			
2022年	1月(n=440)	—	—	33.4	20.9	18.0	12.5	—	21.8	11.1	26.4	11.1	7.3	—	6.4	3.4	1.4	3.0	0.9
	2月(n=324)	—	—	38.3	18.2	19.1	13.3	—	23.5	14.8	26.9	10.2	9.0	—	7.1	4.9	1.9	4.3	0.6
	3月(n=684)	—	—	34.8	18.9	21.5	14.6	—	28.2	13.6	30.4	7.6	5.7	—	5.7	2.9	0.9	2.3	1.2
	4月(n=435)	—	—	34.9	23.7	21.1	15.9	—	23.7	14.9	30.6	6.4	8.3	—	4.6	2.5	1.6	1.6	0.5
	5月(n=503)	—	—	31.0	26.6	20.7	15.9	—	22.3	16.3	29.6	6.8	3.8	—	3.2	1.2	1.2	2.0	0.4
	6月(n=500)	—	—	32.8	22.8	20.4	17.6	—	23.8	15.6	27.2	5.6	5.0	—	3.0	2.4	0.2	1.2	1.2
	7月(n=491)	—	—	31.2	28.5	17.5	12.4	—	24.8	15.5	25.9	9.0	6.1	—	3.9	1.8	0.6	1.0	2.2
	8月(n=523)	—	—	25.2	27.0	17.8	14.5	—	23.7	10.9	19.3	9.2	7.5	—	1.7	4.2	1.1	1.5	1.0
	9月(n=457)	—	—	26.5	24.3	22.3	19.5	—	26.5	16.4	24.1	6.3	7.4	—	3.1	2.6	2.0	0.7	2.6
	10月(n=585)	—	—	30.3	26.0	19.5	14.9	—	22.9	19.0	21.9	8.5	7.7	—	3.4	1.9	1.9	2.7	0.9
	11月(n=549)	—	—	27.5	24.6	21.3	17.3	—	22.4	16.9	25.0	7.1	6.6	—	2.4	3.6	1.1	2.6	0.5
	12月(n=559)	—	—	25.0	22.5	20.6	20.8	—	23.4	17.2	23.6	8.8	4.1	—	2.5	2.7	1.4	2.7	1.3
2023年	1月(n=641)	35.1	14.5	23.6	18.7	20.4	16.4	16.5	16.1	12.6	15.4	4.2	5.5	5.5	3.0	3.7	2.5	2.7	1.2
	2月(n=570)	33.3	17.2	19.1	18.1	18.8	16.5	16.3	15.3	15.3	14.0	4.9	3.5	4.9	4.2	3.7	4.0	3.0	0.4
	3月(n=984)	37.4	22.4	19.2	19.1	18.1	17.9	15.8	15.3	14.0	11.7	5.9	3.4	3.4	2.7	2.4	2.0	1.5	0.5

(注1) 2023年3月を基準に並び替え。
 (注2) *は2021年度調査より、★は2023年度調査より追加。
 (注3) 2020～2021年のデータは「旅行年報2022」P55を参照。

資料: (公財)日本交通公社「JTBF 旅行実態調査」

表 I-5-3 国内宿泊観光旅行中の感染対策(複数回答)

(単位: %)

	マスクの着用*	混雑している屋内	混雑している屋外	混雑していない屋内	公共交通機関	混雑していない屋外	手洗い・うがいの励行・徹底	アルコール除菌を励行・徹底 設置されている	アルコール除菌剤の携行	キャッシュレス決済の利用	ソーシャルディスタンスの確保	他人がそばにいる場所では、 会話を控える*	飲食時の注意	多数が集まる 密集空間の回避	換気の悪い密閉空間の回避	密接場面の回避	間近での会話等	不特定多数が触れる箇所を なるべく触らない	感染対策情報のチェック*	訪問予定施設の 感染対策情報のチェック	旅行先地域の 感染対策情報のチェック	受けてから旅行に行く PCR検査を	体温計を持参し、毎日検温*	「新しい旅のエチケット」や 「新しい旅のルール」のチェック*	その他	特になにもしていない
2022年	1月 (n=440)	94.1	-	-	-	-	70.7	71.6	58.9	26.8	38.0	28.4	36.4	42.3	35.9	27.7	31.6	8.6	7.0	3.6	7.3	5.5	0.2	0.5		
	2月 (n=324)	91.7	-	-	-	-	68.2	75.6	56.8	33.0	45.1	29.9	43.5	49.7	38.6	29.0	35.2	12.3	10.5	3.7	9.6	8.6	0.0	1.2		
	3月 (n=684)	95.6	-	-	-	-	67.7	75.6	58.5	30.3	44.4	32.5	39.0	43.6	43.4	30.8	32.3	10.2	7.7	4.4	7.3	7.5	0.0	0.7		
	4月 (n=435)	95.2	-	-	-	-	63.0	68.0	57.2	27.6	37.9	27.6	31.7	37.9	34.9	25.1	28.3	10.1	6.0	4.4	5.5	4.8	0.0	0.5		
	5月 (n=503)	91.8	-	-	-	-	62.6	71.8	55.9	25.6	34.0	26.2	30.8	36.2	33.6	23.9	28.6	8.9	7.0	3.6	5.4	5.4	0.0	1.6		
	6月 (n=500)	94.0	-	-	-	-	62.8	73.4	58.4	29.0	36.2	28.0	32.2	34.0	35.0	25.6	28.6	8.4	6.2	4.0	7.0	5.4	0.4	1.8		
	7月 (n=491)	92.9	-	-	-	-	66.4	71.7	56.4	26.7	33.4	24.6	31.0	34.4	32.6	23.2	26.9	8.6	6.7	4.1	9.4	4.9	0.4	2.0		
	8月 (n=523)	91.8	-	-	-	-	61.8	71.3	56.0	24.1	28.9	25.2	27.7	30.4	31.5	21.0	26.8	6.3	4.4	5.7	7.3	2.7	0.2	2.5		
	9月 (n=457)	94.3	-	-	-	-	62.1	73.7	56.5	27.4	31.3	25.2	28.0	31.7	32.8	20.6	28.0	3.3	2.8	3.1	4.2	2.6	0.0	1.8		
	10月 (n=585)	89.4	-	-	-	-	66.7	69.6	57.6	23.9	33.8	25.0	29.1	36.9	32.1	22.9	29.7	8.0	5.1	5.3	5.5	5.8	0.3	1.4		
	11月 (n=549)	90.7	-	-	-	-	70.1	69.6	53.9	25.0	33.9	27.1	27.1	33.7	31.9	22.4	30.8	8.0	6.2	4.4	6.0	4.6	0.4	2.0		
	12月 (n=559)	91.1	-	-	-	-	63.5	70.1	55.1	26.7	29.2	25.0	27.2	35.6	31.5	22.4	25.9	7.7	6.6	6.6	7.2	5.0	1.1	2.0		
2023年	1月 (n=641)	61.5	47.9	36.7	34.6	29.8	27.9	41.8	31.7	30.6	22.9	22.0	18.7	20.3	23.2	19.0	15.8	12.9	8.9	6.2	8.4	6.2	7.2	0.3	10.8	
	2月 (n=570)	56.5	42.6	36.1	30.7	28.1	26.1	38.8	28.8	27.2	27.4	20.4	16.3	18.4	17.2	14.0	10.5	11.2	7.5	7.5	8.2	5.3	5.1	0.5	9.5	
	3月 (n=984)	64.0	49.4	39.8	35.6	31.7	27.0	42.1	29.8	26.9	23.4	18.7	17.5	17.1	16.9	16.3	11.6	10.0	6.5	5.9	5.4	4.4	3.9	0.4	11.8	

(注1) 2023年3月を基準に並び替え。

(注2) *は2021年度調査より追加。

(注3) ※2023年5月調査から「マスクの着用」を細分化し、5項目に区分した。2023年1月以降は、細分化した5項目のいずれかに回答した場合を「マスクの着用」とカウントし集計した。

(注4) 2020～2021年のデータは「旅行年報2022」P55を参照。

資料: (公財)日本交通公社「JTBF 旅行実態調査」

●旅行先の決定にあたり重視したこと

国内旅行先の決定にあたって重視したことでは、2023年1月以降、「コロナ禍に関係なく、以前から行きたい旅行先」がトップとなった。また、「特に重視した点はない／同行者の意向」も徐々に増加していることから、コロナ禍が旅行選択に及ぼ

す影響が小さくなってきていることがわかる。コロナ禍で重視されていた「あまり人が密集しないような地域」、「観光施設や宿泊施設が感染対策を徹底」、「公共交通機関を使わないで行ける」は、2022年1月には3割前後を占めていたが、2023年3月には1割程度となった(表I-5-4)。

表 I-5-4 国内宿泊観光旅行先の決定にあたり重視したこと(複数回答)

(単位：%)

	以前から行きたい旅行先 コロナ禍に関係なく、 充実している	宿泊先の滞在環境が よくなる地域	あまり人が密集しない 観光施設や宿泊施設等が 感染対策を徹底	観光施設や宿泊施設等が 感染対策を徹底	旅行割引支援制度や 割引プラン	公共交通機関を 使わないで行ける	居住地域から近い地域	愛着のある地域/ 会いたい人がいる	地域全体で 感染対策を徹底	移動中の感染対策を徹底 旅行先が歓迎の意を 表している	新型コロナウイルス 感染者数が少ない	地域の医療体制が整っている	分散対策(予約制や混雑状況 の情報発信等)がされている	旅行者にPCR検査を推奨	その他	特に重視した点はない/ 同行者の意向		
2022年	1月 (n=440)	17.5	21.1	30.0	27.0	7.0	33.0	16.8	8.6	10.0	6.1	14.8	9.8	2.3	2.0	2.7	0.2	15.7
	2月 (n=324)	21.6	21.3	29.3	29.3	9.0	29.9	21.9	10.2	11.1	8.6	18.8	11.1	4.3	5.9	4.3	1.2	18.5
	3月 (n=684)	17.5	21.8	32.0	28.2	6.0	34.1	17.3	7.7	12.3	6.0	16.8	6.7	2.8	2.6	2.3	0.7	16.5
	4月 (n=435)	20.0	19.1	28.5	22.3	7.8	32.4	15.4	8.5	10.8	8.3	17.0	10.8	2.1	2.5	3.4	1.1	17.2
	5月 (n=503)	18.5	21.9	27.2	21.3	7.6	30.6	14.7	7.6	12.3	7.2	14.5	9.7	2.8	2.4	3.8	0.4	19.9
	6月 (n=500)	20.2	20.0	27.0	22.2	13.2	25.6	15.2	11.6	10.4	8.4	14.6	7.8	2.2	1.2	2.8	0.2	20.4
	7月 (n=491)	18.7	17.9	26.7	21.8	11.2	25.1	14.5	7.5	9.2	4.9	14.1	7.1	2.9	2.0	3.1	1.2	24.8
	8月 (n=523)	16.3	18.7	28.7	21.2	8.8	27.0	12.8	9.8	9.2	6.1	12.8	5.2	3.4	2.9	1.5	0.6	24.3
	9月 (n=457)	18.8	18.2	21.9	21.4	11.4	26.5	14.9	8.1	6.8	7.0	11.2	4.2	2.8	2.4	2.6	0.9	26.5
	10月 (n=585)	22.1	20.9	24.8	20.7	13.8	24.8	10.6	8.2	9.1	6.2	10.4	6.5	2.9	2.9	5.0	1.4	22.2
	11月 (n=549)	19.9	20.9	23.1	25.0	17.9	18.6	14.6	7.1	11.1	7.7	14.6	6.9	3.5	4.9	7.1	0.5	20.8
	12月 (n=559)	19.1	20.2	21.8	21.6	15.0	21.5	13.2	8.1	11.4	6.8	10.6	3.6	3.6	3.2	5.4	0.9	23.8
2023年	1月 (n=641)	22.2	19.3	17.6	14.8	10.9	12.0	12.3	10.9	7.8	9.0	7.8	3.7	4.8	4.4	5.8	1.6	23.2
	2月 (n=570)	21.9	19.1	16.3	13.3	13.3	12.1	8.4	8.8	9.1	7.4	8.2	6.0	5.3	4.6	4.7	0.9	23.3
	3月 (n=984)	23.8	21.2	14.2	12.9	12.8	11.5	11.2	9.3	7.5	7.0	6.5	4.1	3.5	3.2	2.8	1.5	25.7

(注)2023年3月を基準に並び替え。

資料：(公財)日本交通公社「JTBF 旅行実態調査」

2 旅行意識

コロナ禍による影響は徐々に小さく
「家計等の経済状況」が懸念点に

(1) 旅行実施に及ぼす影響

●国内旅行実施のための条件

調査時点での国内旅行を実施するかどうかを判断するときに影響を及ぼす項目を尋ねたところ、すべての調査で「緊急事態宣言の発出状況」がトップとなった。しかしながらこの割合は、徐々に減少している。一方で、「景気や家計の経済状況」や「自治体による旅行割引キャンペーンの有無」といったコロナ禍の状況とは直接的に関連しない項目が、2021年5月から2022年12月にかけて大きく増加している(表I-5-5)。

表 I-5-5 国内旅行実施の条件(複数回答)

(単位：%)

	2020年12月調査 (n=420)	2021年5月調査 (n=1,383)	2021年12月調査 (n=1,368)	2022年5月調査 (n=1,313)	2022年12月調査 (n=1,234)
緊急事態宣言の発出状況	84.3※全国の	79.9	77.9	67.9	62.9
	81.2※居住地域の				
自分の周囲での感染者の発生	63.3	45.0	51.0	49.7	59.7
外出自粛要請の発出状況	76.4	66.5	63.1	53.5	51.1
都道府県をまたぐ移動自粛要請の発出状況	75.0	68.0	63.2	54.0	50.9
旅行先の新規感染者数	70.0	58.6	61.8	49.9	48.3
まん延防止等重点措置の発出状況	—	64.6	58.3	59.3	47.7
景気や家計の経済状況	31.7	16.1	22.4	22.3	38.7
旅行先から発信される情報	54.3	31.5	35.5	26.2	38.1
全国の新規感染者数	45.5	42.6	45.2	33.3	34.5
自治体による旅行割引キャンペーンの有無	28.8	9.2	18.9	16.1	31.3
居住地域の新規感染者数	48.8	39.6	40.2	28.8	26.7
旅行先の医療体制の逼迫状況	28.3	24.5	21.3	14.9	24.7
自分のワクチン接種の有無	—	45.3	24.3	19.6	21.4
治療薬開発の進行状況	—	12.7	13.6	9.2	11.3
旅行者や地元住民の口コミ	14.3	5.1	6.0	4.0	9.6
WHOによる緊急事態宣言の発出状況	11.2	4.8	7.2	4.2	9.2
国内のワクチン接種の進行状況	—	38.7	16.4	6.2	7.5
その他	2.6	2.3	2.3	1.8	2.8
特に影響を及ぼす項目はない	0.7	1.0	2.0	3.2	3.3
無回答	0.2	0.4	0.1	0.1	0.2

(注1) —は選択肢の設定なしを示す。

(注2) 2020年12月調査：コロナ禍で国内または海外の旅行に行きたい人のみ。

(注3) 2021年5月調査～2022年12月調査：コロナ禍で旅行に行きたい(具体的に予定・検討または迷っている)人と新型コロナウイルス感染症が流行しているので行きたくない人のみ。

資料：(公財)日本交通公社「JTBF旅行意識調査」

●海外旅行再開のための条件

海外旅行再開の条件では、コロナ禍初期には「治療薬・ワクチンが確立された」が最多であったが、2022年12月には「入国後の行動に関する制限が解除された」が最多となった。旅行先や居住地域の感染者数を考慮する割合は、どちらも年を追うごとに減少している(表I-5-6)。

●旅行実施に影響を及ぼす項目(2023年5月)

旅行実施に影響を及ぼすものを尋ねたところ、国内・海外旅行ともに「家計の経済状況」が4割超で最多となった。次に挙げられたのは、国内旅行では「自分自身の健康状態」といった自身の状態、海外旅行では「旅行先の公衆衛生や安全性」といった旅行先の状況であった(図I-5-3)。

表 I-5-6 海外旅行再開の条件(複数回答)

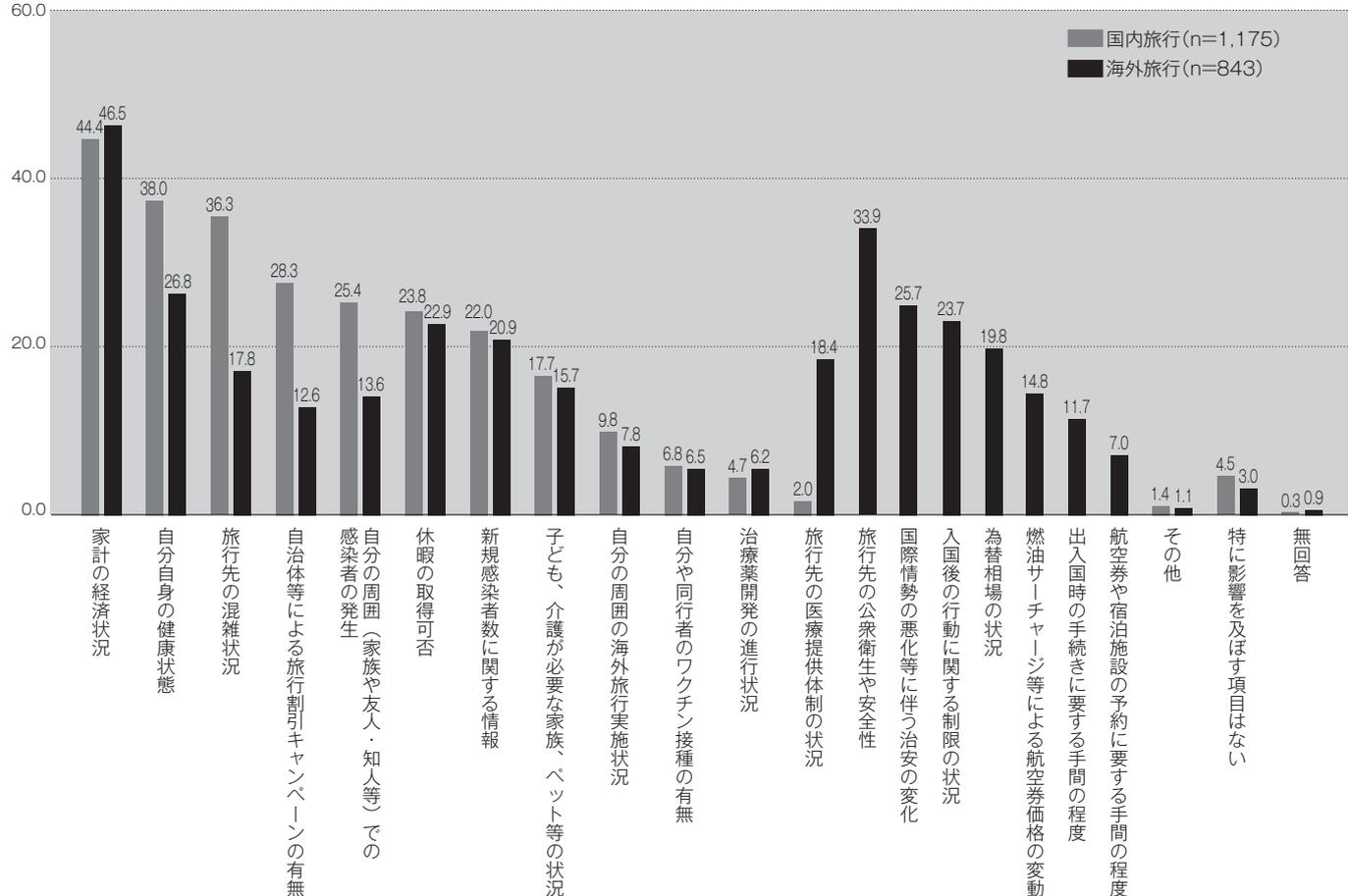
(単位: %)

	2020年12月調査 (n=116)	2021年5月調査 (n=915)	2021年12月調査 (n=858)	2022年5月調査 (n=836)	2022年12月調査 (n=742)
入国後の行動に関する制限が解除された	68.1	43.2	48.0	46.4	47.3
口コミやマスク報道で安全だと確認できた	58.6	43.9	41.8	39.2	43.1
治療薬が開発された	—	46.9	50.8	43.9	42.3
治療薬・ワクチンが確立された	73.3	—	—	—	—
WHOが終息宣言を出した	43.1	48.4	50.1	38.2	35.6
旅行先の医療の逼迫がおさまった	46.6	33.2	31.7	22.6	30.6
旅行先の感染者がゼロになった	56.0	55.4	59.3	37.7	30.6
外務省の感染症危険情報レベルが下がった	47.4	32.0	30.8	28.6	29.1
旅行先から歓迎されることがわかった	44.8	35.3	27.7	25.7	27.9
海外旅行への支援策(キャンペーン等)が出た	41.4	19.5	19.2	17.2	27.4
自分のワクチン接種が完了した	—	60.0	30.4	22.5	23.2
自分の周りの人が海外旅行に行き始めた	30.2	21.3	22.5	22.5	22.8
日本国内の新規感染者がゼロになった	40.5	42.7	34.8	22.1	19.0
旅行先でワクチン接種が進んだ	—	43.6	31.4	18.8	14.2
居住地域の感染者がゼロになった	37.9	32.1	27.6	16.0	13.5
その他	3.4	2.2	2.2	3.8	4.4
条件はない(すぐにでも行く)	0.9	0.1	0.5	1.1	3.0
無回答	0.9	0.4	0.5	0.5	0.4

(注1) —は選択肢の設定なしを示す。
 (注2) 2020年12月調査: コロナ禍で国内または海外の旅行に行きたい人のみ。
 (注3) 2021年5月調査~2022年12月調査: コロナ禍で旅行に行きたい(具体的に予定・検討または迷っている)人と新型コロナウイルス感染症が流行しているので行きたくない人のみ。
 資料: (公財)日本交通公社「JTBF 旅行意識調査」

図 I-5-3 旅行実施に影響を及ぼす項目(2023年5月)(複数回答)

(単位: %)



資料: (公財)日本交通公社「JTBF 旅行意識調査」

(2) 今後の旅行の目的地や行動の変化

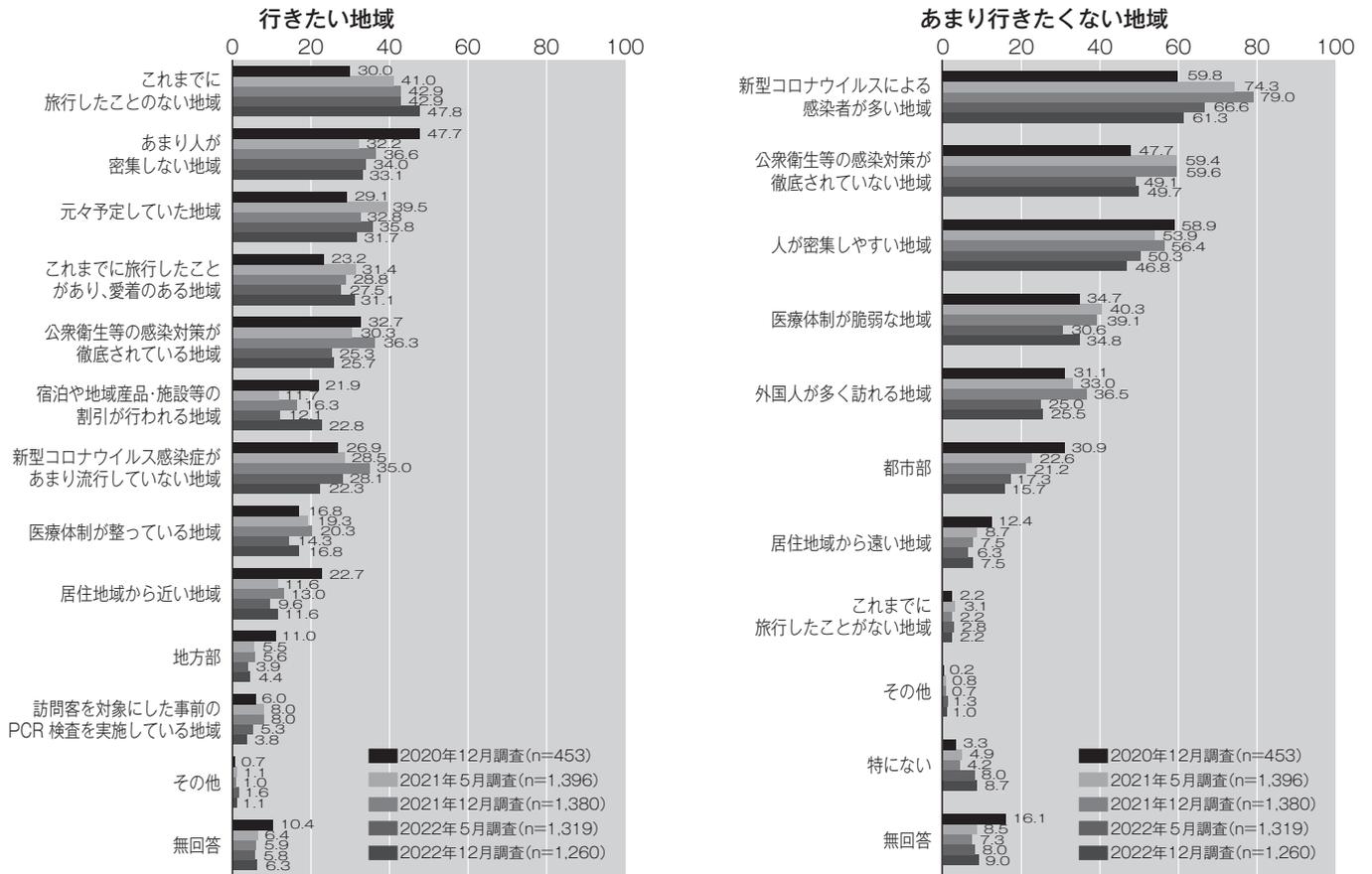
● 行きたい地域・あまり行きたくない地域

新型コロナウイルス感染症の流行下や今後の旅行で行きたい地域を見ると、2020年12月は「あまり人が密集しない地域」や「公衆衛生等の感染対策が徹底されている地域」といった感染への憂慮を理由に行きたい地域を選択していた傾向にあった。しかしながら、2021年5月以降は「これまでに旅行したことのない地域」が増加し、2022年12月には約半数が選択した。一方で、あまり行きたくない地域は、常に「新型コロナウイ

ルスによる感染者が多い地域」がトップで、2位は「公衆衛生等の感染対策が徹底されていない地域」または「人が密集しやすい地域」のどちらかとなった(図I-5-4)。

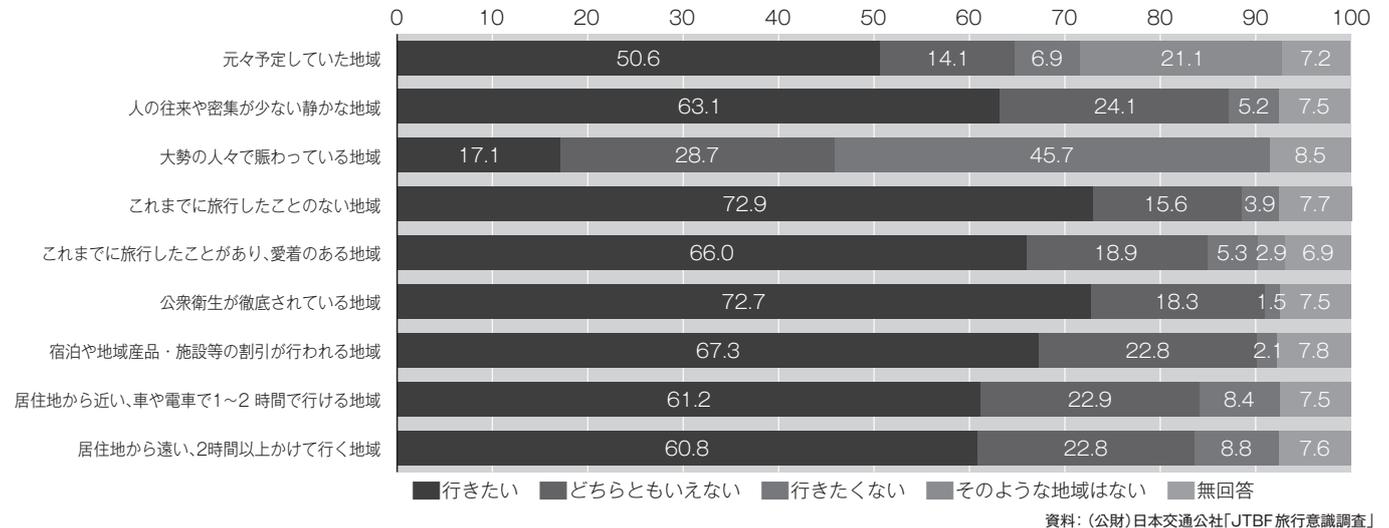
2023年5月における今後の旅行で行きたい地域を見ると、「これまでに旅行したことのない地域」と「公衆衛生が徹底されている地域」において「行きたい」が7割超で高い割合を占めた。「大勢の人々で賑わっている地域」は、「行きたくない」が4.5割を占めていることから、依然として公衆衛生や混雑度等が、旅行先決定の軸になっていることがわかる(図I-5-5)。

図 I-5-4 新型コロナウイルス感染症流行下や今後の旅行で行きたい地域・あまり行きたくない地域(複数回答) (単位: %)



(注1) 2020年12月調査: コロナ禍で国内または海外の旅行に行きたい人のみ。
 (注2) 2021年5月調査~2022年12月調査: コロナ禍で旅行に行きたい(具体的に予定・検討または迷っている)人と新型コロナウイルス感染症が流行しているのに行きたくない人のみ。
 資料: (公財)日本交通公社「JTB旅行意識調査」

図 I-5-5 今後の旅行で行きたい地域(2023年5月)(複数回答) (単位: %)



●旅行の計画や旅行先での行動で意識すること

旅行の計画を立てるときや旅行先での行動で意識することのうち、混雑緩和に関する項目は2020年12月から2021年12月にかけて5割以上で推移していたが、2023年5月にかけて徐々に減少している。しかしながら、その割合は2023年5月時点においても4～5割と他の項目に比べて選択率が高く、依然として約半数が意識していることがわかる。

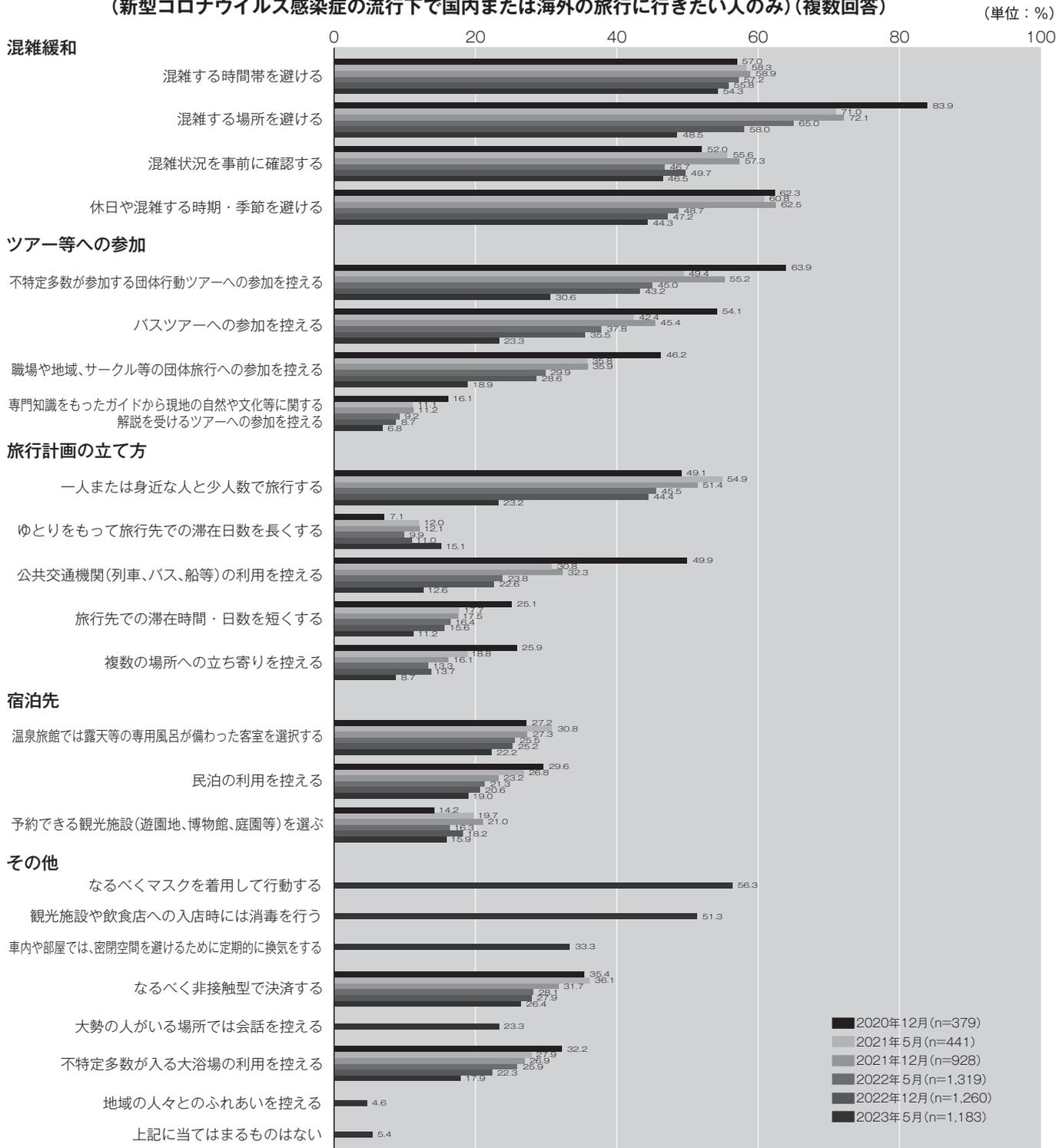
ツアー等への参加では、2020年12月に5～6割と選択率が高かった「不特定多数が参加する団体行動ツアーへの参加を控

える」や「バスツアーへの参加を控える」が、2023年5月には2～3割まで低下した。

コロナ禍初期に比べて、多くの項目に対する意識が低下した一方で、意識が高まった項目も見られた。「ゆとりをもって旅行先での滞在日数を長くする」は、2020年5月には1割に満たなかったが、2023年5月には1.5割を超えている。

このほか、マスクの着用や入店時の消毒に対する意識は、2023年5月の時点で5割を超えており、今後も旅行先での行動として意識されることが考えられる(図I-5-6)。

図 I-5-6 旅行の計画や旅行先での行動で意識すること
(新型コロナウイルス感染症の流行下で国内または海外の旅行に行きたい人のみ)(複数回答)



資料: (公財)日本交通公社「JTBF 旅行意識調査」

3 旅行意向

収束後「これまで以上に旅行に行きたい」
2023年1月27.9%

減少しており、これらの発出がなかった2022年4月以降は、1割超で推移している(表I-5-7)。

(2) コロナ禍収束後(収束実感後)の旅行意向

コロナ禍収束後の旅行意向は、2021年以降、「これまで以上に旅行に行きたい」が、継続して20%台で推移している。なお、2023年1月のこの割合は27.9%で調査開始以降、最高値となった(図I-5-7)。

(1) コロナ禍における直近3か月間の意向

この先3か月間の旅行予定では、2021年1月を除いて4~5割が「旅行意向あり」と回答した。「国内宿泊旅行を今のところ実施予定」は、緊急事態宣言下やまん延防止等重点措置下で

表 I-5-7 この先3か月間の観光旅行の予定(複数回答)

(単位: %)

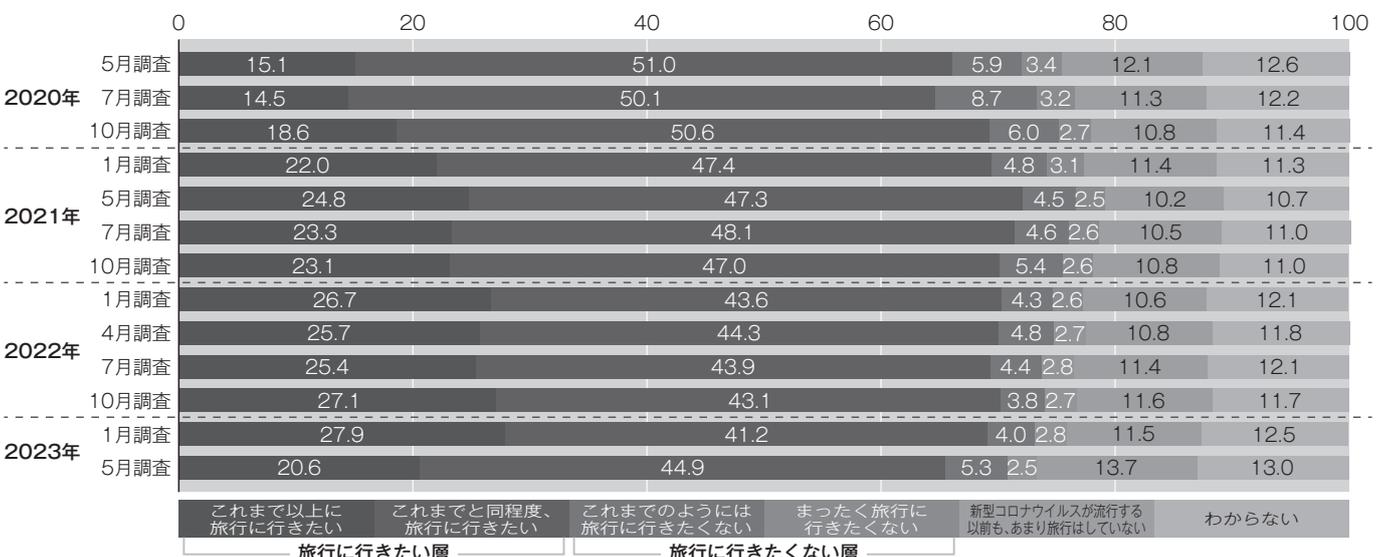
	元々旅行に行く予定はない	旅行意向あり(検討・中止含む)															
		まだ予定を決めていないが、旅行に行きたいが、新型コロナウイルスの影響は関係なく中止延期を検討している旅行がある	国内日帰り旅行				国内宿泊旅行				海外旅行						
			すでに中止・延期を決定	中止・延期を検討	計画することを躊躇	今のところ実施予定	すでに中止・延期を決定	中止・延期を検討	計画することを躊躇	今のところ実施予定	すでに中止・延期を決定	中止・延期を検討	計画することを躊躇	今のところ実施予定			
2020年	5月調査	55.6	44.4	17.5	0.5	6.5	2.0	6.1	0.8	14.9	3.0	8.3	1.6	3.3	1.0	2.0	1.4
	7月調査	45.7	54.3	30.1	0.6	2.7	1.6	5.8	3.0	6.5	2.8	10.0	9.3	2.1	0.9	2.4	1.7
	10月調査	45.6	54.4	29.3	0.5	2.0	1.2	4.1	4.5	4.6	1.9	6.6	14.8	1.6	0.8	1.9	1.5
2021年	1月調査	63.5	36.5	19.4	0.3	2.1	0.9	4.2	1.2	7.4	2.1	6.9	3.1	0.9	0.4	1.5	1.5
	5月調査	59.4	40.6	22.7	0.4	2.5	1.2	5.5	1.9	5.9	1.8	8.3	4.7	1.8	0.8	1.6	0.5
	7月調査	50.2	49.8	29.2	0.5	1.7	1.1	4.8	3.5	3.6	1.9	8.5	10.5	0.9	0.6	1.9	1.6
	10月調査	48.8	51.2	32.4	0.4	1.4	0.9	3.6	4.2	3.0	1.3	5.9	10.9	0.7	0.5	1.5	1.8
2022年	1月調査	55.8	44.2	24.9	0.5	1.3	1.1	4.0	2.9	3.3	2.1	6.9	8.3	0.6	0.4	1.2	1.9
	4月調査	50.7	49.3	26.3	0.5	1.2	0.9	3.0	6.1	2.6	1.1	4.7	14.5	0.7	0.4	1.2	1.5
	7月調査	46.6	53.4	28.3	0.6	0.8	0.6	1.9	6.4	1.7	1.0	3.8	17.9	0.7	0.4	1.4	1.8
	10月調査	47.8	52.2	28.0	0.5	0.8	0.5	1.8	6.7	1.9	0.8	3.1	17.4	0.5	0.4	1.2	1.8
2023年	1月調査	52.8	47.2	26.7	0.4	0.8	0.6	2.1	5.1	1.7	0.8	3.4	13.3	0.6	0.5	1.2	1.9

(注1) 2020年5月調査~2022年1月調査、2023年5月: n=50,000、2022年4月~2023年1月調査: n=20,000。
(注2) 本設問は2023年1月調査まで実施した。

資料: (公財)日本交通公社「JTBF旅行実態調査」

図 I-5-7 コロナ禍収束後(収束実感後)の旅行意向

(単位: %)



(注1) 2020年5月調査~2022年1月調査、2023年5月: n=50,000、2022年4月~2023年1月調査: n=20,000。

(注2) 2020年5月調査~2022年1月調査では「新型コロナウイルスが収束したら、旅行に行きたいですか」、2023年5月では「新型コロナウイルスの収束が実感できたら、旅行に行きたいですか」とした。
資料: (公財)日本交通公社「JTBF旅行実態調査」

4 日常生活での意識・行動

新型コロナウイルス感染症への不安は2023年5月は4.5割
不安の理由トップは「自分や家族の感染」

(1) 日常生活での意識

●新型コロナウイルス感染症に対する不安

新型コロナウイルス感染症に対して不安をもつ人の割合は、最も不安が高まったコロナ禍初期(2020年5月)から大幅に減少し、2023年5月の「とても不安を感じている」は1割を下回った。これに「やや不安を感じている」を合わせた「不安を感じている層」も半数未満となった。一方で、「不安を感じていない層(「まったく不安を感じていない」+「あまり不安を感じていない」)」は、32.6%と、調査開始以降最大となった(図I-5-8)。

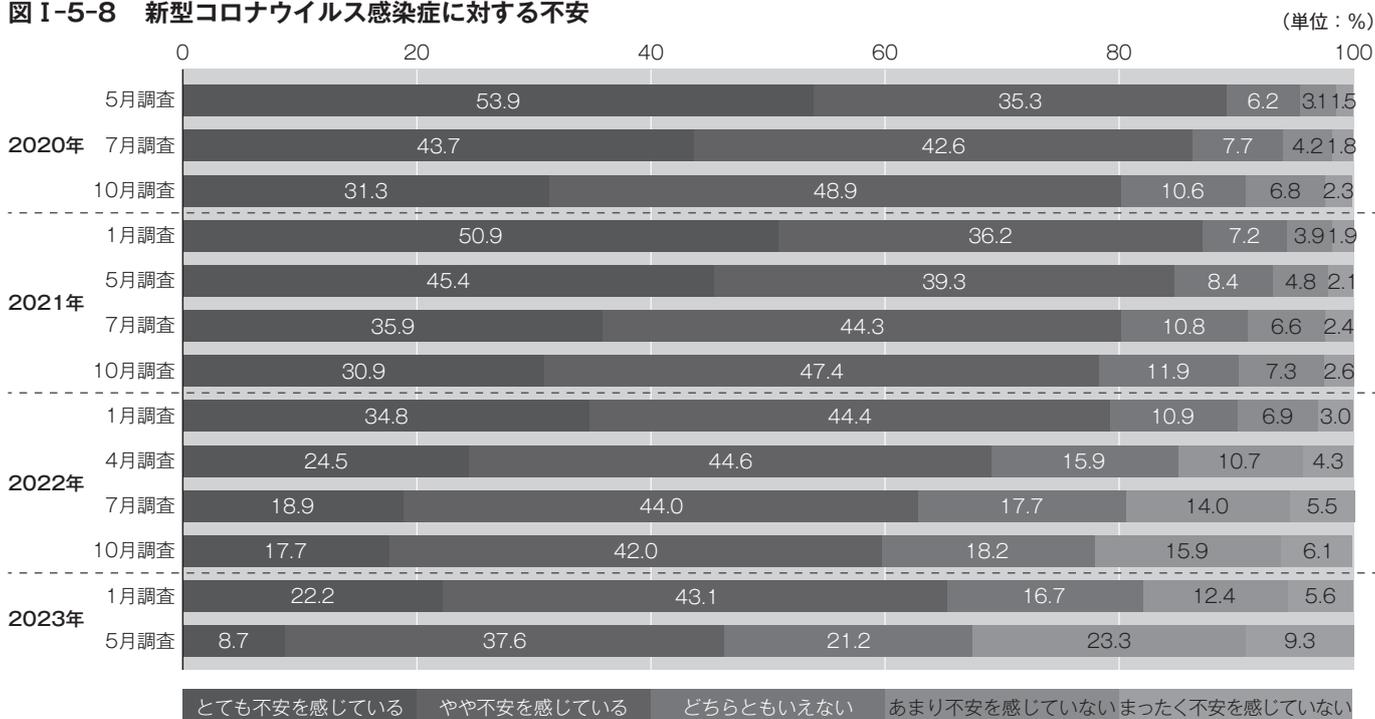
不安の具体的な内容には、「自分や家族の感染」が調査開始以降、継続して9割前後で推移し、3年間を通じてトップとなっ

た。「外出自粛等今後の生活形態の変容」、「日本経済の低迷」、「世界経済の低迷」、「必要な日用品の入手困難」に関する不安は、2020年5月から2023年1月にかけて20ポイント以上減少した(表I-5-8)。

●日常生活での感染対策

新型コロナウイルス感染症に対する日常生活での対策では、この3年間継続して「外出時にマスクを着用する」が9割を超える高い水準で実施されていた。「手洗い・うがいを励行・徹底」や「訪問先に設置されているアルコール除菌スプレーを励行・徹底」も、最も実施率が高かった時期(手洗い等:2020年5月、アルコール除菌:2021年5月)と比べて減少しているが、比較的高い水準で対策が続けられていた。一方で、コロナ禍初期に注目された「不要不急の外出自粛」、「旅行・レクリエーションを控える」、「外食を控える」の実施率は、2023年にかけて大幅に減少した(表I-5-9)。

図 I-5-8 新型コロナウイルス感染症に対する不安



(注)2020年5月調査~2022年1月調査、2023年5月: n=50,000、2022年4月~2023年1月調査: n=20,000。

資料: (公財)日本交通公社「JTBF旅行実態調査」